

自己点検・評価

岡山外語学院

法務省入国管理局の「日本語教育機関の告示基準」が平成 28 年より施行され、日本語教育機関の自己点検・評価が義務化されたことを受け、本学院においても教育水準の向上を図り、本学院の理念・行動指針・ミッション・経営指針を達成するため、毎年、教育活動の自己点検を行っている。令和5年度に引き続き、活動の状況について自ら点検及び評価を行った。なお、自己点検評価項目については、「日本語教育機関の告示基準解釈指針」、日本語教育振興協会「日本語教育機関教育活動評価 自己点検・評価票」を参考に作成し、それに基づき自己点検・評価を行った。

なお、平成 31 年 4 月 1 日と令和 4 年 4 月 1 日には、日本語教育振興協会の「日本語教育機関教育活動評価基準」に適合する教育機関として認定されている。また、過去7年間広島入国管理局より「適正校」に選定の通知をいただいている。令和 5 年10月11日適正校(クラス I)に認定された。

点検・評価実施日:令和6年 3 月 29 日

実施責任者:校長 鷹家 秀史

実施担当者名(役職):田上伴則(学生部部长)、中島正恵(人材育成部部长)松下有加(総務部部长)
大賀崇矢(企画推進部部长)

1. 理念・教育目標について

<理念>

理念は全体会議のたびに教職員一同で復唱している。

若者達の無限の可能性を信じ、情熱をもって日々研鑽し、進化する支援者となります。
叡智と勇気をもって、継続可能な組織体を実現し、多文化共生社会の礎となります。

<行動指針>

行動指針も全体会議のたびに教職員一同で復唱している。

より質の高いサービス業としての教育を目指し、地域との共生を通じて多文化共生社会の礎になるため日々深く広く考え、生き生きと行動します。

<ミッション>

ミッションも全体会議のたびに教職員一同で確認している。

1. 学生の日本語能力の向上を図る
2. 日本語教育を通じて、多文化の人々が日本の社会に溶け込む懸け橋となるグローバルな視野を持つ人材を育成し、社会に貢献する
3. 業務領域を拡大し、留学生・就労者・生活者への日本語教育とレベルの高い日本語教師と職員を育成し、地域の活性化と多文化共生社会の実現を目指す

<学校経営ビジョン>

1. 理念の実現

多文化共生社会の礎となる進化する支援者及び継続可能な集団

2. 多様な教育ニーズへの対応

急激な環境変化、社会・学習者からのニーズの変化に即応できる日本語教育の提供と柔軟な組織運営

3. 質の高い日本語教育の実現

学生一人ひとりに寄り添い、質の高い教育を実現

4. 他組織・団体との連携

自治体・企業・教育機関・NPO・地域などとの協力体制の確立

5. 日本語教育の業務領域の拡大

留学・就労・生活の類型化に即した新領域に挑戦

6. ウィズコロナ下での安定経営の実現

<学生心得>

学生心得は入学式の際、校長から説明があり、学生達に復唱させるとともに、各教室に掲示している。

1. 健康と安全を心がけます。

2. 法と礼儀を守ります。

3. 勉学に励みます。

4. 夢を持ち、一日一日を大切にします。

5. 自分に負けない私になります。

2. 入学者募集について

学生の受入れにあたっては、「日本語学習の目的、日本語学習歴、経費支弁能力において問題のない学生を受け入れる」という方針で、継続的な日本語学習に支障のない学生を受け入れている。平成 30 年 4 月にアドミッション・ポリシーを作成し、募集要項に記載している。適切な学生受入れを行うために、特定の国・地域に大きく偏らないよう、国・地域別に適宜受入れ定員を定めている。

英語、中国語、ベトナム語でパンフレット・募集要項を作成しており、インドネシア、スリランカ、ネパール等の志願者に対しては英語版のパンフレット・募集要項を使用している。

エージェントの選定については、各国担当者が各エージェントへの聞き取り調査やホームページの内容に不適切な内容がないことを確認することにより選定を実施している。また、上記情報を収集し、各エージェントについて情報をまとめている。

エージェントの選定方法・選定基準について文書化している。エージェントの募集活動が適切かどうかについては、可能な限り現地エージェントを訪問し、募集活動を確認しており、このエージェントの募集活動を把握する方法、及び募集活動を把握した結果についても文書化している。各国の主要エージェントは 15 年以上の友好関係を維持している。

3. 入学者選考について

中国、ベトナム、台湾、香港は原則として現地に赴き、試験・面接を実施している。それ以外の国・地域については Zoom などですべて面接とN5程度の日本語能力の確認を行っている。

入学者の選考は岡山外語学院の選考基準に基づき、①面接試験、②書類審査により、人物、入国目的、勉学意思能力、経費支弁能力などを判定して行う。面接結果を「入学選考面接結果」に残している。

4. 納付金について

入学検定料、入学金、授業料その他納付金の金額、納付時期、納付方法、返金規定、及び学費以外に必要な費用を募集要項に日本語、英語、繁体字、簡体字、ベトナム語で明記している。2023年10月生から入学金と施設設備費の値上げを実施した。

入学金 50,000 円→70,000 円

施設・設備費 0円→30,000 円

5. 学生支援について

進路指導については、進学担当者を2名置き、教務主任、各担任と連携しながら、進学指導にあたっている。

就職希望の学生が少しずつ増えているので、(株)アジアの風 キャリアサポートに就職支援担当者を配置し、対応している。また大学院進学希望者が増加しているため、大学院進学希望者向けの説明会、及び個別指導を行っている。

生活指導に関しては、入学直後に多言語による入学オリエンテーションを実施している。その際に当校作成の「学生便覧」を配布している。この学生便覧には学校生活に関する全般的な注意事項、日本語学習、日本での生活について必要な項目を網羅している。使用言語は英語、中国語、ベトナム語、シンハラ語である。

英語、中国語、ベトナム語、ロシア語、モンゴル語、シンハラ語で対応できる教職員が勤務しており、日本語学習の相談だけでなく、生活相談、学生の心身の健康管理、事故・病気・怪我などのサポートがスムーズでできるよう「24時間対応の緊急連絡先」を学生に周知している。

欠席に関しては、新生は1日の欠席で、その他の学生は連続した3日の欠席で家庭訪問を行っている。インフルエンザ、ノロウイルス、コロナウイルスへの対応、その他の重篤な疾病や傷害があった場合の対応も文書化した。コロナウイルス感染は減少しているが、校内では不安を感じる学生に対して、「抗原検査キット」を常備して、早期対応に努めている。

資格外活動違反者を発生させないよう学生募集の段階から留学目的が明確で経費支弁に問題がない学生を見極めて入学させ、入学後は生活指導担当者や担任が中心となり、警察などと連携し、学生指導を行うことにより資格外活動違反者をゼロにすることを目標としている。特にアルバイト先を一か所にするように指導を徹底している。

6. 教職員について

教職員の業務内容は「組織図」等により明示している。教職員が所属する各部の年間達成目標を「事業計画」として作成し、学校運営の向上を目指すとともに、目標達成状況を確認しながら教職員評価の参考としている。また、各教職員が個別の目標を前期・後期それぞれ設定し（「自己目標シート」）、各自の目標達成の状況を部長・校長が判断する体制を作っている。そのほかにも、教職員の質の向上を目指して、研修等の実施及び各自の研修会への積極的な参加を促している。

7. 教育活動について

学習レベルに応じて「日本語入門レベル」から「上級レベル」までクラス分けを行っている。入学直後や学期の途中であっても、プレイメントテストを実施することにより、適切なクラス分けを行っている。また、J-Test などの結果も参考にし、学習者の学習意欲を高めている。

各クラスには担任がおり、教務主任（人材育成部部长）と副部长とクラスの授業担当講師と連携しながら教育活動を行っている。1年に2回校長または主任教員による授業見学を行い、質の向上に努めている。

教員研修を毎年実施してきたが、令和2年3月の講師研修会はコロナ禍のためキャンセルされた。この講演会は毎年岡山市内の日本語教師にも声をかけて公開実施されている。このほかにも、「新人教師研修」として、「教案補講」を実施し、また留学生対象に日本文化への理解を目的とした地域交流・文化授業などを定期的に行っている。

2017/03	日本語科創立 25 周年記念講演会「ある教師の変容プロセスを元に」 横溝紳一郎
2019/03	「『中級へ行こう』『中級を学ぼう』を効率的に使おう」 平井悦子、三輪さち子
2021/03	「語彙学習—効率的、効果的な語彙学習の方法、教師の役割、かかわり方」 石澤徹（東京外国語大学）
2021/08	「『日本語ロジカルトレーニング』をもっとアクティブに使おう」 西隈俊哉（一般社団法人 日本語フロンティア 代表理事）
2022/08	「やさしい日本語でやさしい世界を」 吉開章（電通ダイバシティ・ラボ）

8. 教育施設について

校地・校舎は岡山市内の住宅地の一角にあり、近隣との協力体制を敷いている。校舎は築 50 年程度と古く、遮音性については令和元年 4 月に遮音性のあるパーティションを設置することにより改善を見た。

9. 安全・危機管理について

留学生全員、国民健康保険及び日本語学校留学生保険に加入し、病気やけがに対応できるようにしている。

毎月1回「安全衛生委員会」で安全・衛生・健康について審議・提言を行っている。この委員長は

校長である。この会議では、学生の心身の健康管理についても重要な議題として取り上げられる。

毎年、全学生を対象にした「避難訓練」を実施している。今年度は10月27日に実施した。

新入生が入学する時期に警察官をお招きし、交通安全講習を実施している。この講習において、自転車に乗る際の注意事項などについて指導をしてもらっている。今年度は4月10日と10月12日に実施した。

10. 法令の遵守等について

平成30年10月までに法令遵守の担当者を校長とし、責任と権限を決めた。当校は、法令や関連基準等の規定を違えることなく運営しており、岡山県・広島入国管理局・日本語教育振興協会、その他関係官庁への定期報告等定められた報告も適正に遅滞なく行っている。

11. 財務について

当校の経営母体である学校法人アジアの風は、中長期的に安定しており、財務基盤は確立されている。新年度の予算・収支計画については、学校法人アジアの風の理事会・評議員会の場で審議され、承認を受けており、有効かつ妥当なものとなっている。

決算については、適正な会計書類を行い、公認会計士である監事による会計監査を受け、学校法人の理事会・評議員会の場で、監査報告がなされ、承認を受けている。

過去3年間のコロナ禍における入国制限の実施によって留学生の受け入れは大幅に制限され、収入は2019年度対比で2020年度は75%、2021年度53%に減少したが、2022年度92%、2023年度98%とほぼ例年並みに戻った。この間、経営のスリム化や雇用調整助成金の導入により2022年度・2023年度は黒字経営に戻った。

2022年9月に販売を開始した日本語学習アプリ、介護福祉士国家試験合格アプリ、日本生活マナーアプリの統合版であるLTW (LearnToWork)は2023年度から利用者が増えて、安定的な収入をもたらすようになった。

12. 地域貢献・社会貢献について

- ①岡山県内の日本語教師の質の向上のために「瀬戸内日本語教師会」を作り、研修会・勉強会を行い、日本語教育機関及び日本語教育に携わる人材をつなぐネットワークを作っている。
- ②2022年4月より、外国にルーツをもつ親子の居場所づくりを目指して、任意団体 INE(居場所づくりネットワーク)を立ち上げた。また公益財団法人「橋本財団」の助成金を頂き活動が活発化した。また、ボランティアの任意団体 ONN(岡山日本語教師ネットワーク)を28年前に立ち上げ、在岡外国人在住者への日本語教育を毎週2回行っている。
- ③町内会を中心として地域ボランティア活動、特に「西川・枝川をきれいにし隊」には、毎月30名程度の学生が参加してきたが、2020・2021年度には学生はコロナ禍のため参加できなかった。2023年度には学生の参加も増え、前期後期合わせて110名の学生と教職員が参加した。またコロナ禍で中止していた地域運動会に教職員、留学生共に参加し、地域との連携を進めている。

④2018年の「西日本7月豪雨」の被害を受け、学校が属する町内会(久山町)より洪水の恐れがあるときの緊急避難場所と提供してもらえないかとの申し出があり、2019年8月に「災害時における一時避難場所に関する協定書」を交わした。

⑤「やさしい日本語」の研修会を市役所、警察署、銀行、公民館等で開催し地道な普及活動を行っている。

<2023年度実績>

- ・岡山理科大学(6/7・6/14)出前授業
- ・ノートルダム清心女子大学 7/12 出前授業
- ・岡山市立西大寺公民館 7/18
- ・岡山県総社警察署 11/1
- ・岡山大学 11/27 労働安全協議会
- ・岡山大学 11/29 教職員一般向け
- ・岡山後楽館高校 11/16 出前授業
- ・中国銀行 12/10 オンラインにて実施
- ・丸の内ロータリークラブ 2/14
- ・岡山商工会議所 岡山総友会・岡山経会 2/16
- ・岡山市立岡輝公民館 3/7

13. 組織について

学校法人の理事会の下に「経営会議」なる理事長の補佐機関を設け、学校法人全体の意思決定の助けとしている。この経営会議は月に2回行っている。そこで決定した事項に従い、校長以下各部の部長が日々の業務を総括している。

校長、各部長から成る「学校運営会議」を毎週1回行っている。予算編成に関して、執行ルールを文書化する必要がある。予算は各部の事業計画に基づき、校長が各部長と協議しながら、予算を作成している。

14. 学修成果について

留学生の学習成果は毎年 J-test によって、CEFR の A2 以上の学力を担保する取り組みを行っている。法務省は「日本語教育機関の告示基準」の第1条第1項第44号に基づいて「日本語能力に関し CEFR の A2 相当以上のレベルであることを証明する」必要があるとしている。

日本留学試験(EJU)・日本語能力試験(JLPT)の結果などはすべて把握している。卒業後の進路も取得できる限り入学許可書の提出を受けており、すべて把握している。進学先、就職先を訪問して、進学後あるいは就職後の状況を可能な限り把握するよう努めている。

2023年度 組織図					
	最高顧問:遠立超 顧問:秋政	学校法人アジアの風 理事会	評議員会	監事	(株)アジアの風 キャリアサポート
		理事長(片山) 副理事長(森下)		*副統括は2年任期	社長(森下)
	経営会議 (片山・森下・鷹家)	岡山外語学院 校長(鷹家)	学校運営会議 (鷹家・大賀・松下・中島・田上)		企画推進部長 (大賀)
総務部部長 (松下)	学生部部長 (田上)		人材育成部部長 (正)中島、(副)佐藤		企画推進部次長 (河合・佐藤)
財務・経理	留学生募集 (林)	学生管理・支援 (田上)	業務IT化・デジタル教材 (矢野)	教務・授業	職業紹介次長 (岡村)
研修	介護・看護(河合・李)	入管対応(奥田)	アルバイト・寮(國方)	進学・検定・模試	地域貢献担当 (岡村)
人事・勤怠	広報委員会(秋政)	学費徴収	Wawa・GAK・ZOOM	共通教材作成	
福利・厚生	広報(大坪)	国内向け新企画・デジタル教材の開発			
	日本語教師養成講座(420時間・eラーニング・サポーター)・実践日本語・教師派遣・編入・プライベートレッスン				
	安全衛生委員会・同窓会・施設管理(岡村)				
	式典・諸行事(入学式・卒業式・終業式・短期研修・遠足・社会見学・スポーツ大会・スピーチコンテスト・卒業文集など)				
松下、下田	田上、河合、矢野、李、林、大坪 國方、ミン、秋政、秋山、奥田		中島、松本、利守、齋藤、 佐藤、長畑、福田、塚本、 和泉、谷野	大賀・岡村 (佐藤)・(河合)	
広報委員会(秋政)	秋政・大坪・大賀・河合・矢野・秋山				
安全衛生委員会	岡村・松本・國方・下田				